6

令7

論理を捉えて

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

では、モアイを作った文明は、いったいどうなったのだろうか。

a〜かつて島が豊かなヤシの森に覆われていた時代には、土地も肥え、バナナやタロイモなどの食料も豊富だった。しかし、森が消滅するとともに、豊かな表層㋐ドジョウが雨によって侵食され、流失してしまった。火山島はただでさえ岩だらけだ。その島において、表層ドジョウが流失してしまうと、もう主食のバナナやタロイモを栽培することはb困難となる。おまけに木がなくなったため船を造ることもままならなくなり、たんぱく源の魚を捕ることもできなくなった。

こうして、イースター島はしだいに食料危機に直面していくことになった。c〜その過程で、イースター島の部族間の抗争も頻発した。そのときに倒され破壊されたモアイ像も多くあったと考えられている。そのような経過をたどり、①イースター島の文明は崩壊してしまった。モアイも作られることはなくなった。文明を崩壊させた根本的原因は、森の消滅にあったのだ。千体以上のモアイの巨像を作り続けた文明は、十七世紀後半から十八世紀前半に崩壊したと推定されている。

②イースター島のこのような運命は、私たちにも無縁なことではない。

日本列島において文明が長く㋑繁栄してきた背景にも、国土の七十パーセント近くが森で覆われているということが深く関わっている。日本列島だけではない。地球そのものが、森によって支えられているという面もある。③森林は、文明を守る生命線なのである。

現代の私たちは、地球始まって以来の異常な人口爆発の中で生きている。一九五〇年代に二十五億足らずだった地球の人口は、半世紀もたたないうちに、その二倍の五十億を突破し、今や八十億を超えてしまった。イースター島の急激な人口の増加は、百年に二倍の割合であったから、④いかに現代という時代が異常な時代であるかが理解できよう。

このまま人口の増加が続いていけば、二〇五〇年には九十七億に達するだろうと予測される。必要な食料はますます増えていくだろう。実際、二十一世紀に入ってからの二十年間で、世界の農耕地の面積は急速に拡大している。しかも、新たな農耕地の約半分は、森林を切り開いて生み出されたものだ。今のところ、全人口を支えるだけの食料生産は維持されているが、分配の不均衡により、飢餓に悩まされる国や地域は増えている。目の前の危機を乗り越えるために、これ以上、森林を切り開けば、表層ドジョウの流出によって、結果的に食料不足が㋒コウジョウ化するおそれもある。

絶海の孤島のイースター島では、森林資源が枯渇し、島の住民が㋓飢餓に直面したとき、どこからも食料を運んでくることができなかった。地球も同じである。広大な宇宙という漆黒の海にぽっかりと浮かぶ青い生命の島、地球。その森を破壊し尽くしたとき、その先に待っているのはイースター島と同じ飢餓地獄である。とするならば、私たちは、今あるこのd有限の資源をできるだけ効率よく、長期にわたって利用する方策を考えなければならない。それが、⑤人類の生き延びる道なのである。

〈安田喜憲「モアイは語る―地球の未来」より〉

・モアイは語る―地球の未来

2年　光村

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

1 ――線㋐〜㋓の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 〜〜線a「かつて」c「その」の品詞名を漢字で書きなさい。

3 〜〜線b「困難」d「有限」の対義語を漢字で書きなさい。

4 ――線①「イースター島の文明は崩壊してしまった」とあるが、イースター島の文明が崩壊した根本的原因を文章中から抜き出して書きなさい。

5 ――線②「イースター島のこのような運命は、私たちにも無縁なことではない」とあるが、この一文の文章中における役割を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 話題をイースター島から地球に切り替えている。
イ 話題をイースター島からモアイに切り替えている。
ウ 話題に人類の軌跡を付け足している。
エ 話題に地球の存在意義を付け足している。

6 ――線③「森林は、文明を守る生命線なのである」とはどういう意味か。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 文明が発展することで森林も大切にされるようになった。
イ 森林の面積の広さにより文明の発展具合を判断できた。
ウ 文明は森林のさまざまな恩恵により支えられてきた。
エ 森林があったことで人口を急激に増やすことができた。

7 ――線④「いかに現代という時代が異常な時代であるか」について、次の問いに答えなさい。

(1) どのような現象を指して異常と述べているのか。文章中から四字で抜き出して書きなさい。

(2) この現象が、なぜ異常といえるのか。「イースター島」「地球」「半世紀」の三語を使って、五十字以上六十字以内で書きなさい。

8 ――線⑤「人類の生き延びる道なのである」とあるが、どうすることが必要と述べられているか。「資源」「効率」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

7

令7

いにしえの心を訪ねる

・扇の的

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

［原文］

与一、かぶらを取ってつがひ、よつぴいて①ひやうど放つ。小兵とアいふぢやう、十二束三伏、弓は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず扇a|の要ぎは一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射切つたる。かぶらは海へ入りければ、扇は空へぞ上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ散つたりける。夕日b|のかかやいたるに、みな①イ紅の扇の日出だしたるが、白波c|の上に①ウ漂ひ、浮きぬしづみぬ揺られければ、沖には平家、ふなばたをたたいて感じたり、②陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり。

あまりの③おもしろさに、感に堪へざるにやとおぼしくて、舟のうちより、年五十ばかりなる男の、黒革をどしの鎧着て、白柄の長刀持つたるが、扇立てたりける所に立つて舞ひしめたり。伊勢三郎義盛、与一が後ろへ歩ませ寄つて、

「④御定ぞ、つかまつれ。」

と⑤言ひければ、今度は中差取つてうちくはせ、よつぴいて、しや頸d|の骨をひやうふつと射て、舟底へ逆さまに射倒す。平家の方には音もせず、⑥源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり。

「あ、射たり。」

と言ふ人もあり、また、

「⑦情けなし。」

と言ふ者もあり。

［現代語訳］

与一は、かぶら矢を取ってつがえ、十分に引き絞ってひょうと放った。小柄なので、矢は十二束三伏だが、弓は強い、かぶら矢は、浦一帯に鳴り響くほど長いうなりを立てて、誤ることなく扇の要から一寸ほど離れた所をひいふっと射切った。かぶら矢は海へ落ち、扇は空へと舞い上がった。しばしの間空に舞っていたが、春風に一もみ二もみもまれて、海へさっと散り落ちた。夕日が輝く中に、金の日輪を描いた真っ赤な扇が白い波の上に漂って、浮きつしずみつ揺れているのを、沖では平家が、舟端をたたいて感嘆し、陸では源氏が、えびらをたたいてはやし立てた。

あまりのおもしろさに、感動したのであろう、舟の中から、年の頃が五十歳ぐらいで、黒革おどしの鎧を着て、白柄の長刀を持った男が、扇の立ててあった所に立って舞を舞った。そのとき、伊勢三郎義盛が、那須与一の後ろへ馬を歩ませてきて、

「御命令であるぞ、射よ。」

と言ったので、今度は中差を取ってしっかりと弓につがえ、十分に引き絞って、男の頸の骨をひょうふっと射て、舟底へ真っ逆さまに射倒した。平家方は静まりかえって音もしない、源氏方は今度もえびらをたたいてどっと歓声を上げた。

「ああ、よく射た。」

と言う人もあり、また、

「心ないことを。」

と言う者もあった。

〈「平家物語」より〉

1 「平家物語」が成立した時代とそのジャンルをそれぞれ漢字で書きなさい。

2 ①ア～ウを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

3 a～d「の」の中から、意味・用法の異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

4 ①「ひやうど」は擬音語であるが、これ以外の擬音語を［現代語訳］から二つ抜き出して書きなさい。

5 ②「陸には源氏、えびらをたたいてどよめきけり」とあるが、源氏の武士たちはどのような気持ちだったのか。「与一」「腕前」の二語を使って、二十字以上三十字以内で書きなさい。

6 ③「おもしろさ」とあるが、何がおもしろかったのか。「（誰）が～こと。」という形で書きなさい。

7 ④「御定」とは、何をどうしろという命令か。「～という命令。」につながるように、十字程度で書きなさい。

8 ⑤「言ひければ」の動作主を［原文］から抜き出して書きなさい。

9 ⑥「源氏の方にはまたえびらをたたいてどよめきけり」とあるが、源氏の武士たちがどよめいたのはなぜか。「扇」「舞」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

10 ⑦「情けなし」と言った者は、どのような行動に対して「心ない」と言っているのか。「感動」「非情」の二語を使って、二十字以上三十字以内で書きなさい。

2年

光村

※無断で複写・複製をすることを禁じます。